

財団法人 庭野平和財団 御中
コード No:21-S-015

提出:2022年4月28日

令和3年度「HAPIC2022 への協賛および NPF セッション実施」 事業完了報告書

国際協力 NGO センター(JANIC)
作成:伊藤衆子

1. プログラムの目的

HAPIC2022 におけるオープニングセッションへの協賛、NPF 主催セッションを実施し、国際協力セクターの参加者がセッションテーマで提起される意見・提案について学びを得るとともに、HAPIC に対して NPF の協力があることで HAPIC への多様な参加者を獲得する。

2. 主な活動内容・スケジュール

「民間活動支援助成の『これまで』と『これから』-助成プログラムはどう進化するか」と題したセッション開催
2022年2月13日(16:30-17:30)



03

2/13 Sun 16:30-17:30

ブレイクアウトセッション
「民間活動支援助成の『これまで』と『これから』-助成プログラムはどう進化するか」

感染症のみならず、世界規模の課題が進行する中で、民間助成機関は市民社会組織による活動に何を期待しているのか。国際協力NGOを長年サポートしてきた民間助成機関が、「これまで」と「これから」を語ります。

<登壇者>

川北秀人	IIHOE[人と組織と地球のための国際研究所]代表者 兼 ソシオ・マネジメント編集発行人
利根英夫	公益財団法人トヨタ財団 プログラムオフィサー
西田浩子	公益財団法人かめのり財団 理事・事務局長
高谷忠嗣	公益財団法人庭野平和財団 専務理事

<セッション進行>

セッション概要説明・登壇者紹介 10分
各登壇者から発題(①これまでの助成のねらい、実績、課題 ②今後の助成のねらい、方針)20分
コーディネーターからご登壇者に質問 15分
登壇者から締めくくりのコメント 10分

<セッション参加者>

49 名が参加し、その内訳は下記のとおり(開始時に投票実施)。

NGO/NPO(年間支出1億円以上)33.3%、NGO/NPO(年間支出1億円以上)33.3%

NGO/NPO(年間支出1億円未満)18.5%、行政・独法・国際機関など・0.0%

助成機関・22.2%、NGO/NPO の支援者・7.4%、その他・18.5%

<セッション概要>

トヨタ財団のアジアでの事業に対するマルチセクターへの助成、庭野平和財団の宗教団体としての小回りの利く助成、かめのり財団の社会状況に合わせた助成事業のシフトなど、それぞれの助成機関から、コロナ禍を挟んでの変化と、2022 年から 23 年の助成のあり方を議論した。

■ディスカッション・質疑:

- ・トヨタ財団:アジア諸国で常に安定している国はあまりない。重要なのはそこでネットワークを続ける、エンゲージし続けること。世代を超えてつながっていくこと、長期的な視点をもって腰を据えて助成をすることが必要と考える。日本よりも経済成長している国もあり、日本への期待も変わってきている中で、自分たちがどれをできるかという考えもありユニークな助成をつくっている。
- ・庭野平和財団:宗教的政治に基づく、人、組織を育てる助成を公募と非公募の連携でやっていく。
- ・組織基盤、実験的なものはお金がかかるが、非公募で出てきたものが公募に移行できる力をつけるために必要。
- ・かめのり財団:コロナの緊急助成からは脱出。案件組成型のもの。仮説を元にニーズ調査をして支援していく方向性。1年で成果が出せる事業は少なく複数年にする必要。人材育成と、日本の多文化共生のてこ入れ。ベトナムで現地の人材育成に力を入れるために、現地の NGO 等について調査中

■結論・ネクストアクション

- 助成団体は先の見通しのシナリオを複数持つ必要がある。NGO とどうシンクロするか。助成機関が枠組みをつくって NGO に提案するだけでなく、案件組成の段階から、ここが重要なテーマである、ここに掘り下げる余地があるという提案をいただくことに踏み出す必要があると感じる。規模が大きくない金額を動かす際には特に、コンテクストを作っていく際の仮説を NGO とともに考えていく。
- ・状況の変化の中で、お互いの変化を見ていく必要がある。日本がカヤの外にいることは気が付かないので、中に入っていく人を育てる必要がある。
 - ・「助ける」から、プロジェクトも人も「育てる」へ。新しい変化の兆しに気づいて対応する。
 - ・助成プログラムをどうしたいかを NGO がたずねる機会を設ける、複数の団体でテーマ設定を検討する場があるとよい。
 - ・NGO から助成プログラムの提案ができるよう検討する場、能力強化が必要。JANIC のイニシアティブが求められるところ。

<スケジュール>

2021 年 12 月	セッション企画・登壇依頼 セッション情報(概要、登壇者)収集・ウェブサイト掲載 参加者募集開始
2022 年 1 月	セッションリハーサル オンライン会場の設営
2022 年 2 月	HAPIC 開催(2/13-15) 精算実施(登壇者謝金他支払い)
2022 年 3 月	アンケート集計、オンライン会場分析 報告書作成

3. 活動の成果

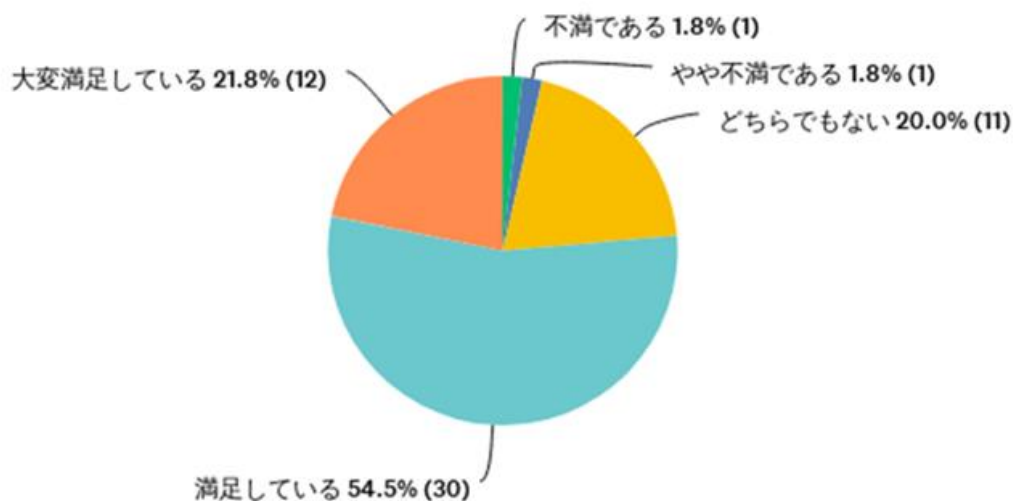
・HAPIC には 560 人(うち JANIC スタッフ 21 人)の参加が得られた。

参加セクター分類:NGO/NPO(51%)、企業(20%)、政府・国際機関(8%)、学生(7%)、研究機関・大学(3%)、財団(3%)、自治体(2%)、メディア他からの参加があった。

■HAPIC への全体満足度

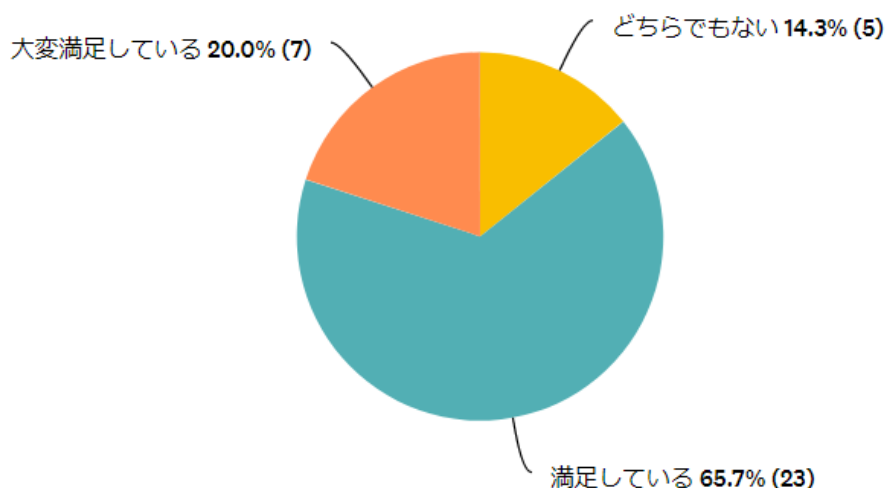
・参加者アンケートで HAPIC に満足したと回答した人は 76%(回答者 55 名中 42 名)であった。

(「大変満足している」21.8%、「満足している」54.5%、「どちらでもない」「やや不満である」「不満である」は 23.6%)



・登壇者アンケートで HAPIC に満足したと回答した人は 85.7%(回答者 35 名中 30 名)であった。

(「大変満足している」20.0%、「満足している」65.7%)



■HAPIC 参加で実現できたこと、できなかったこと | 参加者アンケート

- ・実現できたこと:「最新情報や必要な知識の入手」92.5%、「課題解決に取り組むモチベーションの向上」91.7%、「自身の成長や自組織の変革へのアクションを起こすきっかけ」80.8%であった。
- ・実現できなかったこと:「知り合いとの再会」79.5%、「新しい人や組織とのネットワーキング」72.5%、「自身の成長や自組織の変革へのアクションを起こすきっかけ」20.0%であった。

	実現できなかった	実現できた	合計	加重平均
最新情報や必要な知識の入手	7.5% 4	92.5% 49	53	1.92
新しい人や組織とのネットワーキング	72.5% 29	27.5% 11	40	1.27
知り合いとの再会	79.5% 31	20.5% 8	39	1.21
課題解決に取り組むモチベーションの向上	8.3% 4	91.7% 44	48	1.92
自身の成長や自組織の変革へのアクションを起こすきっかけ	20.0% 9	80.0% 36	45	1.80

アンケート調査実施概要

	参加者	登壇者
回答期間	2022/2/15-2022/2/28	
回答方法	オンライン (SurveyMonkey) での回答	
設問数	28問	22問
回答率	10% (55名/539名)	33% (35名/106名)

※HAPIC 全体報告書は別紙参照

<セッション成果>

- ・国際協力 NGO を長年サポートしてきた3つの民間助成機関の報告や提案により、感染症のみならず世界規模の課題が進行する中で、民間助成機関は市民社会組織による活動に何を期待しているのか、支援実績と課題、今後の方針とそのねらいを参加者が理解できた。
- ・助成機関と活動団体が「評価する側・される側」という関係ではなく、より良い社会づくりのパートナーシップづくりを進めるための民間助成機関の姿勢や提案が共有され、民間助成機関へのアプローチが多様であること、案件組成において協力できる可能性を活動団体側が理解できた。

4. 今後の課題

セッションテーマ:

- ・NGO から助成プログラムの提案ができるよう検討する場づくり。
- ・NGO の助成機関に対する企画・提案力の強化。

HAPIC 開催

- ・HAPIC 継続に向けて、規模やターゲット、プログラムの質向上の検討。
- ・社会状況の変化に、セクター間のパートナーシップを推進するための魅力的プログラムづくり。

以上

令和3年度収支決算書

被助成者:(特活)国際協力NGOセンター



コード番号:21-S-015

(単位:円)

<収入の部>

項目	予算	決算	備考
1. 助成金	1,500,000	1,500,000	HAPIC2022
2. 預金利息	0	0	
合計	1,500,000	1,500,000	

<支出の部>

費目		予算	決算	内訳・備考
1. 人件費	職員	504,000	504,000	HAPICタスクチーム 職員(12~3月)一部 ¥4200×20時間×6人
	補助者謝金	226,000	226,000	準備業務委託(12~3月)一部 1人 ¥100,000、1人 ¥126,000
2. 旅費	国内	0		
	国外	0		
3. 機械・器具 備品費/文献費		250,000	253,000	オンラインシステム設定費一部(91086円×3か月)
4. 登壇謝金		300,000	300,000	財団主催セッション、他キーセッション登壇者22名
5. 会議費		80,000	74,300	オンラインイベント会場登録枠追加326枠購入
6. 資料費		0	0	
7. 印刷・複写費		0	0	
8. 交通・通信費		10,000	12,700	職員、ボランティア交通費一部
9. 消耗品費		0	0	
10. 雑費		130,000	130,000	広報費(ウェブ制作157,300円)一部 振込手数料6985円等
合計		1,500,000	1,500,000	

(令和3年12月1日~令和4年2月28日)

助成金収支明細書

21-S-015

月日	項目	収支明細	収入金額	支出金額	差引残高
12月15日			1,500,000		
12月25日	人件費	事務局長、マネージャー、スタッフ一部		150,000	1,350,000
1月25日	人件費	事務局長、マネージャー、スタッフ一部		150,000	1,200,000
1月25日	会議費	オンライン会場登録枠追加購入		74,300	1,125,700
2月25日	交通・通信費	2月分 スタッフ交通費一部		12,700	1,113,000
2月25日	人件費	事務局長、マネージャー、スタッフ一部		204,000	909,000
2月25日	業務委託費	事業マネジメント、集客事務業務委託2名一部		226,000	683,000
2月28日	雑費	広報費:ウェブ制作費一部		123,100	559,900
2月28日	雑費	振込手数料		6,900	553,000
2月28日	機械・器具・備品費	オンラインシステム設定費(3か月分)一部		253,000	300,000
2月28日	登壇謝金	HAPIC登壇謝金21人		300,000	0
		合計		1,500,000	